

鶴岡市朝日庁舎・消防署朝日分署改築工事 基本設計（概要版）

アックス・あべ・イシイ設計共同企業体

建築課・朝日庁舎総務企画課・消防本部総務課

鶴岡市朝日庁舎・消防署朝日分署改築工事の基本設計について

建築課
朝日庁舎総務企画課
消防本部総務課

工事基本計画書の基本理念・基本方針に基づいて、基本設計の設計方針を定め、施設設備の整備方針及び新庁舎が供用開始後に求められる活用方針をまとめましたので、次のとおり計画します。

| 工事基本計画書 基本理念 | 工事基本計画書 基本方針 | 設計方針 | 施設設備の整備方針 |
|--|---|--|---|
| 1 地震や風水害等の自然災害や火災時における地域防災の拠点 | 庁舎と朝日分署等、周辺施設の機能集約によりコスト縮減を図るとともに、耐震性を確保した地域防災の拠点を旨とする。 また、庁舎周辺一帯を「公共施設ゾーン」として捉え、それぞれの施設の位置付けを明確にする。市民が多く集まる会場（各種集会・避難所等）は朝日中央コミセン・あさひ小学校とし、新庁舎は司令塔としての機能を担う施設と位置付けて、効果的に整備する。 | 耐震性を確保した地域防災拠点として、庁舎と朝日分署を合築し、災害時の連携機能が向上する設計とする。 また、被災時でも必要なエネルギーを供給できる機能を確保し、司令塔として必要な行政機能を保持し、安心安全を支える場を目指す。 | <ul style="list-style-type: none">・周辺機能の集約・・・庁舎と分署の合築に加え、関係団体を集約する・会議室兼災害対策本部室・・・可動式仕切りにより多用途の利用を旨すとともに、被災時には災害対策本部室として司令塔機能を確保する・太陽光発電（ソーラーパネル）・自家発電設備・蓄電池・・・再生可能エネルギーの活用を目的として、ソーラーパネルを庁舎南側の壁面に設置し、被災時の電源を確保し庁舎機能を維持する・マンホールトイレ・・・災害応急対策の一つとして、朝日分署の車庫に2基設置する |
| 2 住民サービスや福祉の向上・地域の活性化、特に対話による連携・協働を推進する拠点 | ワンストップサービスの拡充を図るとともに、デジタルで複数拠点を空間接続し、地域の接続拠点となり、住民サービスの拡充を図る。加えて、デジタルを活用した過疎対策モデル地区として情報通信技術を活用した新しいサービスへの取り組みを推進する。 また、対話による市民協働・交流拠点の整備を実現する。 | ワンストップサービスを拡充させるため、窓口カウンターを集約し、利便性の向上を図る。合わせて、来庁者がわかりやすいレイアウトを実現し、立ち寄りやすい場所を目指す。 また、対話による連携・協働の拠点として、打合せ用の可動ブースや様々な活用を目的とした、多目的スペースを計画する。 | <ul style="list-style-type: none">・ワンストップサービスカウンター・・・同種部門を一連のカウンターに集約し、来庁者が一箇所の窓口で複数の手続きが可能なワンストップサービスを提供する・多目的スペース・・・庁舎正面に、対話や協働の拠点として、打合せ用の可動ブースやバス待合スペース、コワーキングスペース等の活用を目的とした、執務時間外も使用可能な空間を整備する |
| 3 中山間地域の暮らしを守り、支える取り組みを推進する拠点 | 森林資源などの地域資源を活用するとともに、木質バイオマス(チップボイラー)や太陽光発電等の再生可能資源を積極的に活用する。 また、デジタルを活用した過疎対策モデル地区として、市全体のデジタル推進・地域振興部門等の機能を併せ持つ施設を目指す。加えて、ペーパーレス化、フリーアドレス化に向けた施設環境を整備する。 | 地域の森林資源を活用し、庁舎棟を木造建築とするとともに、木質チップボイラー(チップボイラー)を導入し、床暖房等として活用する。来庁者が安全に立ち寄れるように雪対策に配慮した設計とする。 また、鶴岡市ゼロカーボンシティ宣言の推進のため、省エネに配慮した設計とする。 | <ul style="list-style-type: none">・チップボイラー・・・木質バイオマス棟を整備して、チップボイラーによる温水循環により、床暖房等として活用する・雪対策・・・庁舎正面玄関は、積雪時も安全に来庁できるように、車いす駐車場・駐輪場を併設した、屋根付きのエントランスを整備する・ZEB Ready※・・・鶴岡市ゼロカーボンシティ宣言の推進のため、ZEB Ready仕様の省エネに対応した断熱材・サッシ・空調等を整備する ※基準一次エネルギー消費量（空調・換気・照明等のエネルギー消費）から50%以上の一次エネルギー消費量の削減を実現している建物・太陽光発電(ソーラーパネル)(再掲) |

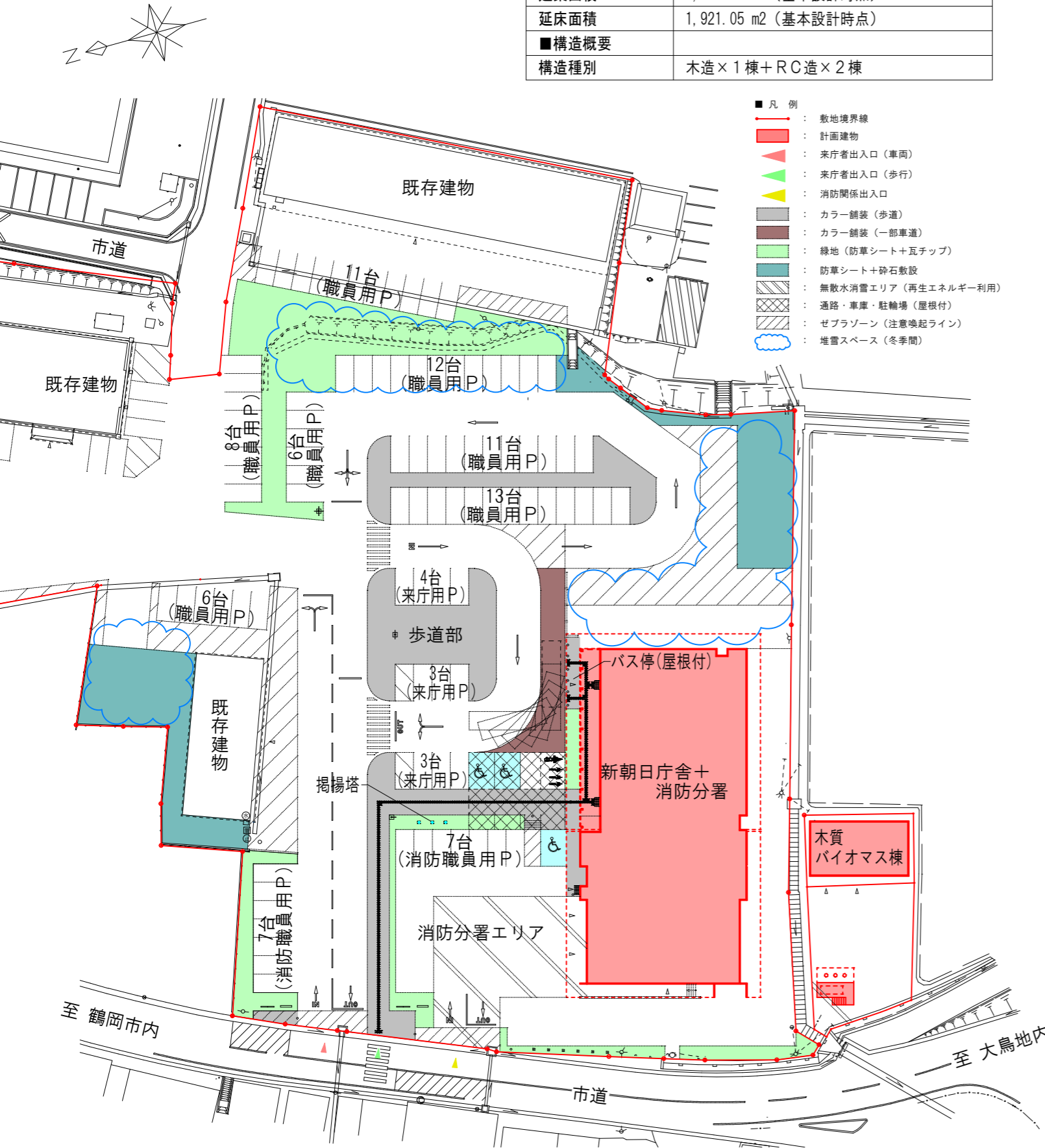
新庁舎が供用開始後に 求められる活用方針

- ・デジタルを活用した過疎対策・地域公共交通・中山間振興の司令塔として、新しいサービスモデル検証の実施
- ・デジタルで複数拠点を空間接続し、地域の接続拠点となり住民サービスの拡充
- ・市民・各団体・市との対話により、地域課題の解決を目指す機会の創出
- ・災害に強いクラウド化の実現及びペーパーレス化、フリーアドレス化についての検討

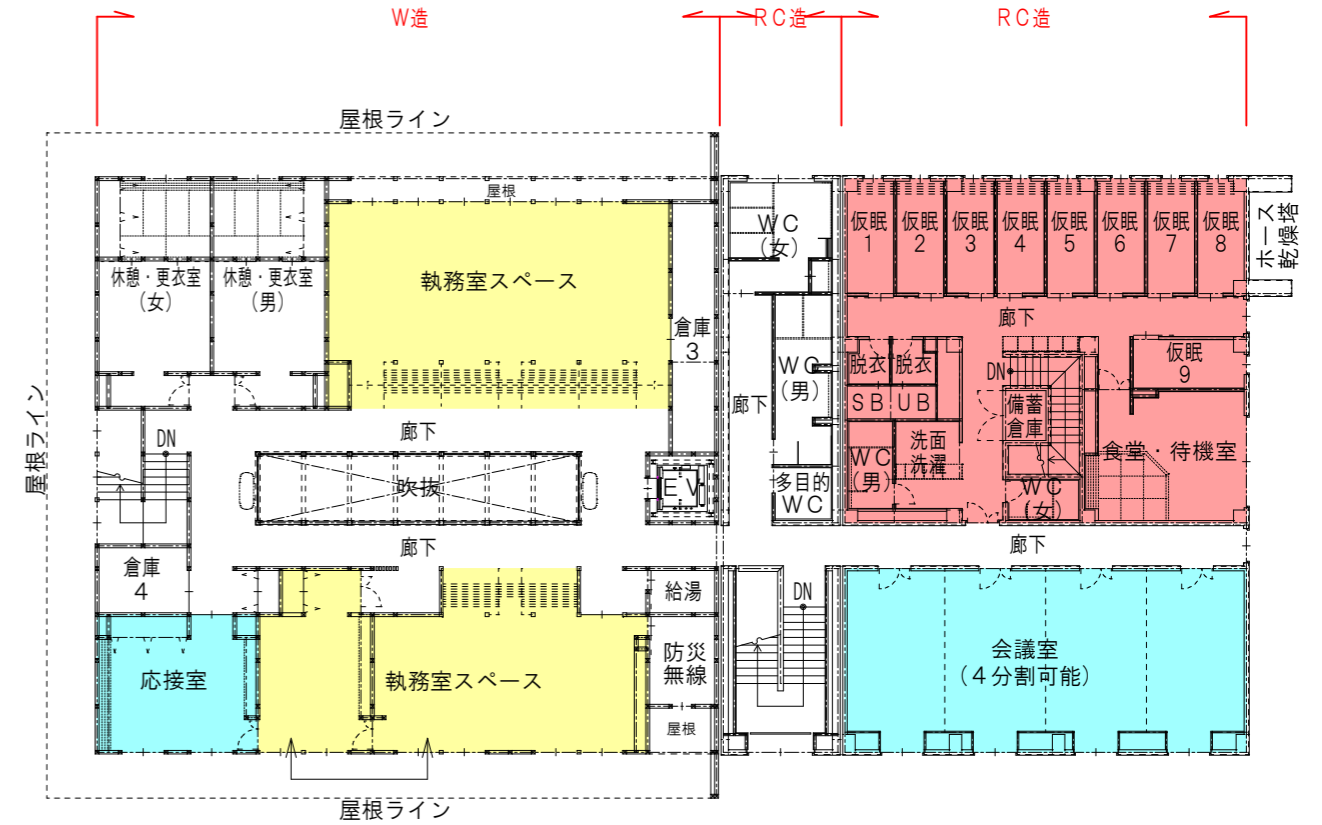
朝日庁舎・朝日分署 計画概要図

※基本設計時点の平面計画であり、
変更の可能性があります。

| ■建築概要 | |
|-------|----------------------------------|
| 建設場所 | 鶴岡市下名川字落合1番 |
| 敷地面積 | 約11,314 m ² (業務委託時点) |
| 建築面積 | 1,110.99 m ² (基本設計時点) |
| 延床面積 | 1,921.05 m ² (基本設計時点) |
| ■構造概要 | |
| 構造種別 | 木造×1棟+RC造×2棟 |



2階



1階

